

木星の眼視観測とスケッチ

佐藤 健 Takeshi SATO (広島県廿日市市)

(E-mail: kensugar@urban.ne.jp)

目を訓練しないと、惑星面の模様をはじめ星雲などもよく見えません。言い換えれば、目の訓練次第で、格段に詳しく見えるようになるということです。

例として、25cm から 2.0cm までの口径で見た木星スケッチを示します。木星の最も濃い縞 (多くの場合は NEB) と濃くなった時の大赤斑は口径 2.0cm 倍率 34 倍で見えました。また、1994 年の SL9 彗星の衝突痕は口径 2.5cm 58 倍で複数のものが見えました (口径 2.0cm 58 倍でも試みましたが、これでは衝突痕は見えませんでした)。

これらのスケッチを会の参加者各位に差し上げますので、天体観望会などで利用価値があるとお考えでしたら、自由にコピーで増やしてお使い下さい。

現在、デジタルカメラと画像処理技術の発達により、熟練者のスケッチを遥かに凌ぐ写真が撮れますが、目で望遠鏡を覗いて観望する人達にとっては、同じ生身の人間の目で見えて描いたスケッチは、写真より親しみを持って頂けるのではないかと思ったりしております。